

Biocontrol Science

投稿要領

(2017年7月14日改正)

1. 投稿資格

投稿者は原則として日本防菌防黴学会の正会員あるいは学生会員に限る。ただし、日本国外の投稿者はこの限りでない。

会員以外の共著者を含むことは差し支えない。

2. 著作権

本誌に掲載された論文についての著作権（冊子体および電子版）は、日本防菌防黴学会に帰属する。

3. 原稿の種類と印字、形式

1) 原稿の種類：投稿原稿の種類およびその内容制限は次の通りとする。

- (a) 原著論文：微生物制御に関する新事実や新技術を含み、他の出版物に投稿または発表されていないものに限る。図表を含めて刷り上がり8頁以内とする。
- (b) ノート：原著論文に準ずるが、少ない内容で完結しているもの。図表を含め、刷り上がり4頁以内とする。
- (c) レビューおよびミニレビュー：微生物制御に関する分野の中から、特定の項目に論点を絞り、一連の必要な研究報告の成果に基づいて論説した上、著者の見解を明確に主張したもの。刷り上がり8頁以内とする。
- (d) コミュニケーション：微生物制御に関する新しい仮説や意見、理論、研究動向など、特定の問題について簡潔にまとめたもので、他の出版物に発表されていないものに限る。刷り上がり4頁以内とする。

2) 使用言語：英語とする。

3) 原稿作成方式：必ずワードプロセッサMicrosoft officeなどで作成する。なお、受理された段階で、最終原稿のファイルを含む電子媒体（CD等）を提出する（項目13参照）。

4) 原稿作成要領、印字の形式と指定：

- (a) A4白紙を用いる。
- (b) 用紙の上下左右2.5cm程度の余白を残し、ダブルスペースで1頁に25行、フォントサイズを11.5または12ポイントとして印字する。この用紙3枚が刷り上がり約1頁に相当する。
- (c) 右揃えをしない。
- (d) 印字は用紙の片面のみに行う。
- (e) 原稿には左余白に行番号を記入する。
- (f) 原稿の下余白にはページ番号を記入する。

4. 投稿手続きと送付先、受付および受理期日

1) 投稿項目：論文の投稿に際しては、以下の(a)~(h)

を提出する。

- (a) 表紙（下記項目番号5を参照）
- (b) 本文
- (c) 表
- (d) 図および写真
- (e) 和文要旨

2) 原稿送付先：「Biocontrol Science」編集委員会あてE-mailで送付する（15MBまで）。

3) 受付・受理期日：投稿原稿が編集委員会に到着した日を受付日とし、審査の結果、掲載可と認められた期日を受理年月日とする。

5. 表紙

①~⑦は英文、⑧~⑫は和文で記述する。

- ①論文題目（英文）。ボールド体（太字）とし、一連の連続した研究を示す番号を付けたり、副題を用いないこと。大文字で始まる語は、名詞、代名詞、形容詞、副詞、動詞とし、その他は小文字とする。
- ②著者名（英文）。すべて大文字でボールド体指定する。
- ③論文内容の研究が行われた研究機関名とその住所（英文）。イタリック体指定する。著者および論文対象の研究が行われた機関が複数の場合、著者名の右肩、研究機関名の左肩にそれぞれ対応する番号の数字を順につける。大文字で始まる語は①と同様にする。
- ④電話番号とFAX番号（いずれも国際番号で表記）およびメールアドレス。
- ⑤著者所属機関に変更がある場合はその所属機関と現住所（英文）。
- ⑥キーワード（英文、3~5個）。
- ⑦ヘッダ部に掲載の短縮論文題名（ランニングタイトル、40字以内、英文ですべて大文字）。
- ⑧論文題目（和文）。
- ⑨著者名（和文）。
- ⑩論文内容の研究が行われた研究機関名とその住所（和文）。
- ⑪著者所属機関に変更がある場合の現住所（和文）。
- ⑫グラ刷り校正の送付先の著者（責任著者）名（上記著者名欄②と⑨の該当著者名の右肩に*印を付ける）とその住所（和文）。

6. 本文

1) 開始頁：本文は第2頁から始める。

2) 構成：本文の構成は次の通りとする。原著論文では、(a) ABSTRACT, (b) INTRODUCTION, (c) MATERIALS AND METHODS, (d) RESULTS, (e) DISCUSSION, (f) ACKNOWLEDGMENT(S), (g) REFERENCES。(d)と(e)は合せてRESULTS AND DISCUSSIONとしてもよい。ノートおよびコミュニケーションでは、(a) ABSTRACT, (b) 本文（実験材料と方法、結果、考察を項目分けせずにまとめたもので、

全体の項目名も付けない) (c) ACKNOWLEDGMENT (S), (d) REFERENCES とする。ミニレビューの構成は著者の自由とするが、大見出し、中見出し、小見出しのような見出し項目の細分化はできるだけ避ける。

3) 記述内容:

- (a) ABSTRACT: 原著報文は200語、ノートおよびコミュニケーションは150語以内とする。論文の成果が具体的に把握できるように、簡潔明瞭に書く。段落に分けないこと。
- (b) INTRODUCTION: 研究の背景と目的を簡潔に明示し、総説的な記述を避ける。
- (c) MATERIALS AND METHODS: 実験項目ごとに、正確、簡潔に記述する。既発表の実験方法は、その論文を引用して必要最小限の記述をする。
- (d) RESULTS: 実験内容が論理的に構成されるよう具体的に記述する。図表などを用いて効果的に記述し、冗長、不明瞭にならないよう留意する。図表は必要最小限にとどめ、簡単な結果は本文中に記述する。
- (e) DISCUSSION: RESULTSで行った記述を繰り返すことをできるだけ避け、得られた成果の解釈と意義について記述する。
- (f) REFERENCES: 記述のしかたについて、下記項目12を参照すること。

4) 見出し: MATERIALS AND METHODSおよびRESULTSで、原著報文では内容を項目ごとに分けて記述してもよいが、その場合の見出しには番号を付けず、またボールド体(太字)指定をする。また区分けは1段階とし、大見出しと小見出しのように2段階またはそれ以上の見出しは使用しない。見出し項目間は1行あける。項目の末尾にピリオドは行番号を記載する。

7. 和文要旨

原著報文は400字程度、ノートおよびコミュニケーションは200字程度、上記項目5の表紙の中の各項目のうち、⑧~⑩を要旨本文の前に記す。この要旨は、日本防菌防黴学会誌に掲載される。

8. キーワード

内容を表すのに必要な用語を3~5個示す。各項目の最初の語のイニシャルを大文字とし、項目ごとにスラッシュで区切る。'membrane'や'structure', 'enzyme', 'inactivation'のような一般的なものは使用せず、例えば、'membrane structure', 'enzyme inactivation'のようになる。

9. 表

TABLE 1のように番号をつけて順に記し、各表ごとに別の用紙に記載する。各葉の欄外には著者名を記入する。

内容を的確に表す題目をつける。本文を読まずに実験条件が理解できるよう説明文を表の下につける。ここで

は段落を設けてもよい。MATERIALS AND METHODSや他の図表に記載されている実験条件は反復せず、それらに記載されていることを述べる。

表は左右開きとし、縦線は使用せず上下端に線を入れる。可能な限り印刷頁の横幅の文字数120を超えないようにする。

表中の項目や数字などに説明文をつける場合は、該当部分の右肩にイタリック体の小文字のアルファベット(a, b, cなど)を付け、表の下に一般の説明文のあとに記述する。

本文中、表の挿入箇所を用紙の右の空白部に記す。

10. 図および写真

図はA4白紙に黒インクで明瞭に作成する。各図ごとに別の用紙に描く。各葉の欄外には必ず著者名、図の番号を記入する。

図・写真の題目と説明文は別の用紙にまとめて記載する。FIG. 1のように番号をつけて順に記し、題目は内容を的確に表すものとする。また本文を読まずに実験条件が理解できるよう説明文をつける。この説明文は段落なしに続ける。MATERIALS AND METHODSや他の図表に記載されている実験条件は反復せず、それらに記載されていることを述べる。図・写真の幅は、刷り上がり頁の横幅を超えないようにする。

写真はコントラストの明瞭なものをA4版の台紙に貼る。原則として、図中には文字を記入しない。顕微鏡写真などサイズを表す場合は、写真中に尺度を示す線を入れ、説明文中にその単位を記入する。

本文中、図の挿入箇所を用紙右の空白部に記す。

11. 記号、略号、単位など

学術用語、物理量、元素、化合物名などの記号、略号については、原則として国際的に慣用されているものを使用する。慣用されていない場合には、最初の記述において括弧をつけ、その中にその意味を明らかにする。

単位は基本的に国際単位系(SI)を用いる。略号・単位には複数でもsを付けない(単位および略号は表1~3参照のこと)。

動物、植物、微生物の学名、属名はイタリック体を指定し、最初の記述において略さず示し、その後再度記述する場合は略号で書く。

i.e., e.g., et al.などはイタリック指定せず、ローマン体とする。

12. 引用文献

本文中での文献の引用は著者姓名と年号を記し、次のようになる。引用文献の著者が2名以下の場合、例えばHugo and Franklin (1968) または(Hugo and Franklin, 1968)とし、3名以上の場合には例えばReid et al. (1995)または(Reid et al., 1995)とする。同じ年の同一著者の文献を引用する場合には、a, b, cなど

で区別し、例えば(1995a and 1995b)とする。括弧を用いて複数の文献を引用する場合は、年号順ではなく、筆頭著者のアルファベット順に並べる。論文のREFERENCESの項での文献の引用は、著者名全員の姓名とイニシャル、年号、文献の題目、雑誌または書籍名(および編者名)、巻、最初と最後の頁の順に記載し、筆頭著者の姓名のアルファベット順に並べるものとする。ただし、3名以上の著者がある場合は、筆頭著者による単独名の文献および筆頭著者を含む2名の文献のあとに、年代順に並べるものとする。著者名が記載されていない文献はできるだけ引用しないこと。やむを得ず引用する場合は、Anonymousと記す。雑誌と単行本の引用は下記のように行う。

Hugo, W. B., and Franklin, I. (1968) Cellular lipid and the antistaphylococcal activity of phenols. *J. Gen. Microbiol.*, **52**, 365–387.

Reid, G., Khoury, A., and Nickel, J. C. (1991) The process of microbial biofilm formation in medical devices. In *Biodeterioration and Biodegradation* 8 (Rossmore, H. W., ed.), pp.187–195, Elsevier Science Publishers, New York.

Shibasaki, I. (1983) *Technology of Food Sterilization, New Edition* (in Japanese), pp.229–291, Korin, Tokyo.

雑誌名の省略は *Chemical Abstracts* の用例に従うこととする。雑誌名、書籍名はイタリック体、巻はポールド体とする。和文の雑誌・書籍に掲載されている文献は、そのあとに括弧で in Japanese として入れる。未発刊であるが受理決定後の文献を引用する場合は、雑誌名のあとに in press と記し、校正時に巻、頁、年号を入れる。

投稿中の論文、私信、学会・年会講演要旨集、未発表結果は、REFERENCESの項には入れず、本文中に括弧を用いて示す。この場合、題目は不要であるが、著者名は全員記す。国際会議などのプロシーディングおよび特許はREFERENCESの項に記入できるものとする。

1996年以前の本会誌防菌防黴に掲載された論文の引用では、雑誌名を *J. Antibact. Antifung. Agents* とし、1997~2012年は「*Bokin Bobai*」、2013年以降は再び *J. Antibact. Antifung. Agents* とする。

13. 電子媒体原稿

ディスク内容明細書：最初の原稿投稿時には電子媒体原稿ディスク内容明細書のみ送付し、電子媒体そのものは著者のもとに保管しておくものとする。ディスク内容明細書の記載内容は次の通りとする。①ハードウェア機種とそのメーカー名、②ソフトウェア名、③ファイル名、④ディスクの種類(FD, CDなど)を明記したもので、書式は自由とする。

電子媒体原稿の送付：原稿が審査を経て掲載受理され

た後、印字原稿で指示された改訂をディスク上でを行い、最終改訂原稿として、ディスクと印字原稿1部を学会事務局に送付する。

14. 原稿の審査と掲載

投稿論文の採否は編集委員会が決定する。一度提出された原稿には、編集委員会の承諾なしに変更を加えてはならない。編集委員会は原稿について訂正、補筆および疑義の説明を求めることがある。また投稿原稿の種類の変更を求めることがある。訂正などを求められた原稿は速やかに再提出しなければならない。特別の理由もなく返送の期日から2ヶ月以内に再提出されない場合には、投稿の意思がないものと判断される。なお、2ヶ月以上を経て再提出された原稿は新たに投稿されたものとする。

15. 執筆英文内容の判断

執筆にあたって、英文は可能な限り正確を期し、英語を母国語とする者による校閲を予め行ってから投稿すること。投稿論文の英文が理解しにくいものや文法的な誤りが多い場合は審査不可能と判断し、著者に返却する。投稿前に、学会の斡旋による英文校閲を希望する場合は、著者の負担にてこれを行うことができる。

16. 倫理規定

- 1) 人体を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(1964年、2008年追加)の精神に則り、文部科学省・厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」、厚生労働省「臨床研究に関する倫理指針」、あるいは、文部科学省・厚生労働省・経済産業省「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」等を遵守して行われた研究であること。いずれの場合も所属機関等の倫理審査委員会等で承認された研究である旨を投稿論文中に記載すること。
- 2) 動物を用いた論文は、「動物の愛護及び管理に関する法律」、厚生労働省「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針」および環境省「動物実験の飼育及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」の趣旨に基づき、所属機関等が定める動物実験ガイドライン等を遵守して行われた研究であること。所属機関等の委員会等で承認された研究である旨を投稿論文中に記載すること。

17. 校正

著者校正を原則として1回行う。校正刷りは受け取ったのち、2日以内に校正して速達で学会事務局宛て返送することとする。期限に遅れた場合は編集担当の校正で校了とすることがある。なお、著者校正の際、印刷上の誤り以外の字句、図、表、写真などの挿入、削除は認めない。やむを得ずこれらを行う場合は、その実費を著者負担とする。

18. 英文校閲

審査後掲載受理した論文は、原則として編集委員会の指定する者による英文校閲を行う。この校閲料は掲載料に含まれるものとする。

19. 印刷

図・写真の印刷：図と写真は投稿された原図より製版する。トレース（図）および修正（写真）を編集委員会に依頼する場合、およびカラー印刷、アート紙への印刷を希望する場合には、その実費を著者負担とする。

別刷り：論文別刷りは有料とし、原則として著者は50部以上購入しなければならない。希望部数は著者校正時に学会事務局に通知するものとする。別刷料金は別途定める（下表参照）。

20. 発行後の正誤・訂正

印刷上の誤りについては、著者の申し出があった場合に掲載する。ただし、印刷上の誤り以外の訂正追加などは著者の責任とし、著者の申し出を編集委員会が適当と認めた場合にのみ、費用を著者の負担で掲載する。

21. 掲載料

掲載料は次の通りとする。原著報文、レビューおよび

ミニレビューは8頁まで30,000円（税別）、ノートとコミュニケーションは4頁まで15,000円（税別）とする。それぞれ、制限の頁を超過した場合は、1頁あたり18,000円（税別）を追加するものとする。

なお、掲載料は2016年4月1日より適用する。

英文学術雑誌『Biocontrol Science』

◆投稿原稿

送付先：Biocontrol Science 編集委員会
biocontrol-sci@saaaj.jp

◆最終原稿（電子媒体原稿）

送付先：〒550-0005 大阪市西区西本町1丁目13-38
（新興産ビル）日本防菌防黴学会事務局宛
TEL. 06-6538-2166
FAX. 06-6538-2169

●Biocontrol Science 別刷代（表紙なし）

頁 \ 部数	50部	100部	200部	300部
1～2	23,000	25,000	34,500	41,000
3～4	27,000	30,000	45,000	58,000
5～8	42,000	47,000	78,000	108,000
9～12	64,000	67,000	92,000	132,000

上記価格（単位：円）は2016年4月1日より適用する。